

参加者：35名（うち女性19名）

人が元気

< 7 障害のある人への支援 >

・障害のある子への支援についてだが、幼稚園、保育園へ行って気になるところがあると言われた時に、どうしてよいか、相談する先、受診する病院が分からない。この先親としてどのように対応していけば良いか分からない。保育園や小学校に上がった時に、気になるところが見つかった際に、どういった所へ相談したら良いか、病院はどのような所へ行けば良いかなど、相談できる専任の先生から統一した情報を得られると良い。小学校から中学校に上がった際にも、学校の先生以外にも支援の専門の先生がいて、保育園と小学校での情報や病院での診断内容、どう対応すれば良いかということ、義務教育の間は一貫して支援を受けやすい状況になるとよい。身体に障害がある場合は早い段階で分かるが、精神に障害がある場合、保育園や小学校に入ってからなど大きくなると気づきにくい。親もどうしてよいか分からず不安だし、受けとめられない。市内の障害のある子がいる家庭が統一的に相談できるような場所、情報を持っていてくれる場所があるとよい。子どもの状況を把握しておいてもらえる体制が確立すると良いと思う。普通の中学校であっても担任の先生、養護の先生、こころの教室のサポートなど支援は手厚くなっていると感じている。軽い障害のある子もたくさんいる。学校の中で馴染んでいけるように子どもを見てもらえるような体制ができるともっと良くなると思う。

市 福祉や健康など一貫したサービスを提供するため、有終会館を改装して保健医療福祉のサービス拠点として「結とぴあ」を整備した。実体として情報が共有されていないということが分かった。今日いただいたご意見について、記録をし、ホームページにて公開するとともに市役所内でも情報共有していく。最近では児童館でも対応していく動きがあり、少しずつではあるが、進めていく。

産業が元気

< 23 越前おおの型農業の推進 >

- ・大野市における農業という産業を強固に維持してもらいたいという趣旨で発言する。新聞にて食料自給率の問題が指摘されていた。教師をしていた頃、生徒には食料自給率は39%と指導してきた。現在37%。大変危機的な問題と受け止めている。アメリカからの大豆やトウモロコシの輸入制限をなくすと豆腐も食べられない、家畜の餌もないという状況になるだろう。大野では耕作放棄地を絶対作らない、農地が住宅地に変わるという見通しもあまりないので、農地を維持確保していくことを前提に、生きていける農業のあり方を追求していくべきと考える。大野のものは米でも野菜でも美味しいという定評がある。これを自慢とし、誇りとしていく。また、従事者における高齢化は言うに及ばず。若い方が農業という仕事をやってみたいと思ってもらえるよう、経済的な保証もなくてはならないし、生活の基盤となる仕事としての農業が成立する状態が必要。
 - ・阪谷では鳥獣害が喫緊の課題。なんとか解消の手立てを見出していかなければならないと考えている。農業で生活基盤が図れる、従事者の確保が図れる農業のあり方、食料自給率を確保していけるということが大野から発信していけるような農業のあり方を模索していかなければならないと考える。
- コーディネーター 農業で生活基盤を立てるため、こうだったら良いという考えを持っていらっしゃる方はご意見を。
- ・これから高齢化になると機械を動かさなくなる。阪谷地区全体で広域の農業団体を作ってもらえるとよいと思っている。

自然が元気

<34 次世代につなぐ持続可能な社会の形成>

- ・バイオマス発電について、風向きによっては阪谷（松丸）に煙が来る。油混じりの匂いであつたりするため気になる。バイオマス発電と二酸化炭素を増やさないということは違うのでは。

市 お聞かせいただいた内容は担当課にお伝えする。発電所の目的の一つとしては、石油に頼らないということ。大野は山がいっぱいあり、森林整備が進んでいない。間伐材が残っているものを燃料として出すことで、森林の再生と、林業の振興に役立てようということ誘致した。

行財政改革

コーディネーター ご意見の発表が難しければ、アンケートへの記入をお願いしたい。

資料について

- ・成果、目標値はどこに書かれているのか。

市 単位の左隣にあるのが計画の最終年度の目標値。隣が平成30年度の実績。

累計のものと単年度の数値とが混在している。

- ・図書館の数値だと図書館に来た人の数字ということだが、本を借りた人数でないあまり意味をなさないのでは。

市 第五次総合計画での目標に対する成果指標をお示ししている。

コーディネーター 資料を参考にしつつ、お一人お一人が生活する中で感じられていることを表してほしい。

地区 WS のなかで意見集約の参考とするため、第五次大野市総合計画に掲載されている38の基本施策を用いて、普段の生活を通じた『肌感覚』で、「満足・賛成」「不満・反対」「提案・意見あり」のいずれに感じているかを、会場に設置したシートにシールを貼っていただきました。

内容を取りまとめた結果は以下のとおりです。

※参加された方にシールを貼っていただいたものをまとめたものですので、地区全体の意見というわけではございません。また、参加された方が全ての項目についてシールを貼られたものではございません。

人が元気







